大学体育研究　43：125 － 131，2021

報　告

筑波大学アスレチックデパートメントにおける 2020 NCAA コンベンション視察研修

松尾博一[1)]，山田晋三[2)]

Study Tour to the 2020 NCAA Convention of the University of Tsukuba Athletic Department

Hirokazu MATSUO[1)], Shinzo YAMADA[2)]

Ⅰ．はじめに

2018 年 4 月に筑波大学の学内部局として発足した筑波大学アスレチックデパートメント（AD）は，高木ら[7)]の報告に示されているように，学内における組織体制の整備や学生アスリートへの支援プログラムの提供，シンポジウム等による学内外に向けた情報発信，他大学のスポーツアドミニストレーターを対象とした海外研修プログラムの企画など，多岐に亘る活動を行なっている。

本稿では，2020 年 1 月に開催し，大学のスポーツアドミニストレーターが米国における大学スポーツの現状と大学におけるスポーツ活動のマネジメント体制に関する理解を深めると共に，日本で目指すべき大学スポーツの姿を共有することを目指した「2020 NCAA コンベンション視察研修」について報告する。

Ⅱ．大学スポーツの振興に関する社会的背景

2016 年に日本経済再生本部が策定した日本再興戦略 2016 [3)]において，大学スポーツ振興に向けた国内体制の構築が政策課題として示されたことを契機として，国内における大学スポーツの振興がスポーツ庁を中心として積極的に進められるようになった。その成果として，2019 年 3 月に一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）が発足し，「学業充実」，「安全安心」，「事業マーケティング」への取り組みを主な役割として活動している[1)]。2020 年 7 月末時点で，UNIVAS には 221 大学と 32 競技団体が加盟しており[1)]，大学スポーツの統括組織としての役割を期待されると共に，様々なプログラムを提供することで大学と学生アスリートを支援している。

一方で，大学スポーツ協会の創立に関連する議論が始められた要因の一つとして，大学のスポーツ活動があくまでも課外活動として位置付

1）筑波大学体育系
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba
2）筑波大学アスレチックデパートメント
Athletic Department, University of Tsukuba

けられており，大学内の組織として正式に位置付けられていないために責任体制が不明確で，結果として会計の不透明性や不測の事故や事件発生への対応が遅れるといった問題の原因となる[2]ことが指摘されていたことを忘れてはならない。そのような状況の改善を目指し，「大学スポーツ振興に関わる検討会議 最終とりまとめ[5]」において，大学スポーツにおける競技横断的な統括組織の必要性や大学内にてスポーツ活動をマネジメントする部局の設置，さらには学内のスポーツ活動のマネジメントに中心的な役割を持つスポーツアドミニストレーターの配置が提唱されていた。この提言を受け，大学におけるスポーツ分野を戦略的かつ一体的に管理･統括する部局の設置や人材の配置を支援し，大学スポーツの活性化や大学スポーツを通じた大学全体の振興を図るための体制整備を目的とした「大学スポーツ振興の推進事業[4]」などを通して，大学における運動部活動のマネジメント体制の整備が図られてきた。

しかし，2019 年度に実施されたスポーツ庁の調査[6]によると，学内にスポーツアドミニストレーターを配置している大学は回答した 516 大学のうち 26 校，今後配置する予定や意向がある大学は 37 校に留まっている。従って，大学スポーツ協会を創設する以前から指摘されていた，運動部活動が課外活動として位置付けられていることによって引き起こされる問題は，未だ存在していると考えるのが妥当である。つまり，UNIVAS が様々な施策やガイドラインを策定したとしても，個々の大学におけるスポーツマネジメント部局やスポーツアドミニストレーターの存在がない場合，組織のガバナンスが効かず，施策の実行やガイドラインの運用をマネジメントすることは困難であることが予想される。今後大学スポーツが持続的な発展を遂げていくためには，いかに個々の大学が意志を持ち，主体的に大学におけるスポーツ活動のマネジメントを行うかが鍵となる。そのため，今後の方向性を検討する際の資料として国内外の最新動向を把握するとともに，情報共有の機会を増やしていくことが望まれる。

Ⅲ．筑波大学アスレチックデパートメント

筑波大学では，大学スポーツ振興の議論が活発化する以前の 2010 年から，トップアスリートの育成・広報・社会貢献に取り組む全国初の大学組織として「筑波大学スポーツアソシエーション（TSA)」を設立し，体育会所属チームのユニフォーム・カラーを統一させるなど，大学におけるスポーツマネジメント組織の構築に積極的に取り組んできた[9]。その上で，2016 年 10 月に筑波大学とアンダーアーマー（株式会社ドーム）がパートナーシップを組み，体育会各部の運営におけるモデルケースの確立および大学スポーツの産業化を目指す包括協定[10]を締結した。そして，その協定に基づいて行われた筑波大学，株式会社ドーム，テンプル大学の 3 者での共同研究プロジェクト[8]によって日本における AD の組織作りを 4 つのステージに分けて提案し，そのプロセスに従って筑波大学（AD）を学内の部局として実装することを目指した。その結果として，2017 年 8 月に設置された「アスレチックデパートメント設置準備室」を経て，2018 年 4 月に筑波大学 AD が学内部局として設置された[11]。筑波大学 AD は，2018 年に発足して以来，様々なプログラムを提供して学生アスリートを支援すると共に，シンポジウムや研修を通して学内における取り組みを学外に積極的に発信し，他大学の参考事例となるよう，情報や資源の共有に努めている[7]。

Ⅳ．2020 NCAA コンベンション視察研修

Ⅳ -1．視察研修の概要

本研修は，大学におけるスポーツアドミニストレーターを対象として，米国 NCAA が毎年 1 月に開催する年次総会である NCAA コンベンションへの参加を中心とした視察研修として，筑波大学アスレチックデパートメントが企画したものである。2020 年 1 月 20 日から 26 日の

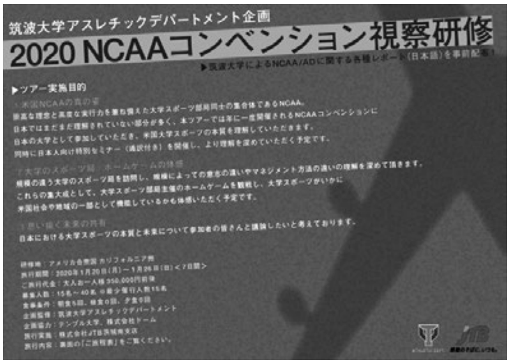

図１　2020 NCAA コンベンション視察研修の参加募集要領

間に実施し，21 名が参加した。プログラムとして，NCAA コンベンションへの参加だけでなく，NCAA や大学アスレチックデパートメントの運営に関わる各分野の専門家を招いたレクチャーやディスカッション，大学スポーツ観戦，大学アスレチックデパートメント訪問を通して NCAA への理解を深めた。なお，NCAA コンベンションとは，全米の大学からスポーツアドミニストレーターが集い，各大学の取り組みや重要な議題について大学の意思を持って議論・決定する，米国の大学スポーツにおいて１年で最も重要なイベントである。

Ⅳ -2. プログラムの内容

本研修は４日間で構成され，１日目には，プレゼンテーション形式での５つのセッションを実施した後，カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）のスポーツ施設を見学した。2 日目には，プレゼンテーション形式での４つのセッションを実施した後，３大学で合同のアスレチックデパートメントを運営する CMS（Claremont-Mudd-Scripps）を訪問し，施設見学とディスカッションを行なった。3 日目には，NCAA コンベンションにて一般公開されているセッションに参加し，４日目には，前日までのプログラムを受けてのグループディスカッション，カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）の施設見学，女子バスケットボールのホームゲーム観戦を行なった。

3）１日目

a.　テンプル大学 Jeremy Jordan 准教授

NCAA におけるガバナンス構造や NCAA の歴史について概説した後，テンプル大学における事例の紹介，NCAA コンベンションが果たしている機能や規則づくりのプロセス等について説明があった。

b.　ロングビーチ州立大学 Rob Clark エグゼクティブシニア副アスレチックディレクター

アメリカンフットボール部を持たないディビジョンⅠ大学におけるアスレチックデパートメントの財政状況がどのような収支になっているのかについて事細かに説明があった。米国の大学であっても，大学の規模や方針によって財政状況が大きく異なることが理解できた。

c.　NCAA ディビジョンⅡ Terri Gronau 副会長

NCAA のディビジョンⅡがどのように運営されているのか，意思決定をどのように支援しているのかが解説された。Ⅰ，Ⅱ，Ⅲと分けられたディビジョン毎に異なる意思決定プロセスとガバナンスがあり，様々な分野に関する専門的な内容を議論する委員会組織から構成されていることが分かった。

d.　NCAA Jen Fraser ガバナンスマネージングディレクター

NCAA のディビジョンⅠがどのように運営されているのか，意思決定をどのように支援しているのかが解説された。ディビジョンⅠに特有の奨学金などに関する規則について説明すると共に，質疑を中心として主に大学の収益システムについて理解を深めた。

e.　NCAA Geoff Silver 学業・メンバーシップマネージングディレクター

米国の大学スポーツにおいて NCAA 本部が果たす役割と組織体制について概説した後，学生の競技への参加資格をどのように管理しているのか，学業成績に関する規則や練習時間など

の制限といった内容について説明があった。また，大学が規則に従っているかを監視し，制裁を下す機能なども有しており，多岐に亘る役割を担っていることが分かった。

f. カリフォルニア大学アーバイン校（UCI）訪問

UCIは，1965年に設置されたカリフォルニア州アーバイン市に本部を置く州立大学であり，NCAAのディビジョンⅠに所属している。学内のスポーツ施設見学をした後に，施設管理を担当するPaul Hope副ディレクターへの質疑を行い，大学の理念とADの理念の一貫性をどのように保っているのか，ADの学内での位置付けなど，様々な質問への回答を得て，大学におけるADの運営について理解を深めた。

2）2日目

a. NCAA David LaFiosca財務マネージングディレクター

NCAA全体における財務について，どのように収益をあげ，どのように支出しているのかについて，グラフを用いて詳細に説明された。特に収益のほとんどをディビジョンⅠの男子バスケットボールの放映権とチケット収入から得ており，その収益がその他のディビジョンやスポーツに分配されることによって全体の活動が維持されているということが分かった。

b. American Athletic Conference（D1）Ellen Ferrisガバナンス・コンプライアンス副コミッショナー

大学における学長がADに関する最終的な権限を持っており，他のすべての部局と同様にコントロールすることができる状態である必要があることなどが説明された。また，ADは大学の一部であり，大学のミッション，目的，ポリシーに則って運営することの重要性が説かれた。

c. 南カリフォルニア大学（USC）Paul Perrier副アスレチックディレクター

USCはロサンゼルスのダウンタウンに位置し，ディビジョンⅠの中でもPower 5と呼ばれる5つのカンファレンスの一つに属する大学のため，大学の学生数やADの予算規模が極めて大きく，また様々な学生アスリートへの支援プログラムがあることが説明された。米国の大学スポーツの中でも，特に大規模なプログラムの事例として貴重な知見を得ることができた。

d. Central Atlantic College Conference（CACC） Dan Mara理事

ディビジョンⅡにて14校が所属するCACCに所属している大学は，すべて比較的規模の小さな私立大学であり，似た特徴を持っていることなどが解説された。大学の理念や学業レベルなど，類似点の多い大学同士でカンファレンスを組むことによってお互いのブランドを高め合うことが重要であることが分かった。

図2　セッションの様子

図3　CMS連合AD視察の様子

e. Claremont-Mudd-Scripps（CMS） 連合 AD 訪問

CMS 連合は，Claremont，Mudd，Scripps という 3 つの大学が協力をして，ディビジョンⅢに所属する一つの AD を運営している。全米でも特殊な事例として，その背景や具体的な連携の方法などについて説明を受けた後，学内施設の見学と質疑を通して，その運営方法について理解を深めた。

3）3 日目

a. NCAA コンベンション公開セッション

NCAA コンベンションでは，ビジターも観覧可能な公開セッションが実施されており，様々なテーマについてプレゼンテーションやパネルディスカッションが行われている。本研修では，参加者が自由にテーマを選択して公開セッションを観覧するようにし，全てのセッションが終了した後に，参加者が観覧した各テーマの概要を振り返って他の参加者に内容を共有する時間を設けた。内容が共有されたテーマは以下の通りである。

1. Division Ⅲ：Collaborative approaches - When Mental Health Intersects with Student-Athletes Identities
2. Maximizing Athletics Department Assets: Branding, Event Marketing
3. Youth Initiative and corporate Partnerships
4. Plays Well with Others: FARs and the Cross-Campus Connection
5. Division III: Crisis Management: Being Your Best During Your Campus' Worst Days
6. Engaging Your Campus Community on Student Athlete Activism
7. Innovative Programs for enhancing student-Athlete Mental Well-Being and Mental Health
8. Athletics Fundraising: Working Smarter,
9. Not Harder with Technology tools and Tips
10. GOALS Study: Understanding the Student-Athlete Experience
11. Championship Hosting 101: How to Create a Winning Team?
12. Division II: Mental Wellness-Building Trust Between Coaches and Student-Athletes
13. Division III: Growing Our Next Generation of Leaders in Athletics Administration
14. Social Media：The Future of Influence Leader
15. Two Things Every University President and General Counsel Need to Know,
16. Supporting Student-Athlete Development with Budget-Friendly Programing,

4） 4 日目

a. 振り返りセッション

それぞれに参加者が前日までの 3 日間を振り返ると共に，「米国大学スポーツ（NCAA, AD など）のどの部分を日本に取り入れるべきか」，「大学間，大学と企業間で協力できることや一緒に生み出せそうなこと」という 2 つのテーマについて 4 人 1 組でのグループディスカッションを実施した。

b. カリフォルニア大学ロサンゼルス校（UCLA）施設見学

UCLA はディビジョン I の中でも特に大規模な大学が所属する PAC12 というカンファレンスに所属しており，アリーナやトレーニング施設にも充実した設備がある。競技スポーツで使用される施設とレクリエーションで使用される

図 4　NCAA コンベンション公開セッションの様子

図５　振り返りセッションの様子

図６　UCLA の施設見学

図７　UCLA のホームゲーム観戦の様子

施設が完全に分けられており，完全に分離して運営されていることなどが説明された。

c. 女子バスケットボールホームゲーム観戦

UCLA のバスケットボールアリーナ Pauley Pavilion にて行われた女子バスケットボール UCLA 対ワシントン大学の試合観戦をした。試合の合間，電光掲示板に「WELCOMES UNIV. OF TSUKUBA & JAPAN COLLEGE SPORTS DELEGATION」の文字が映し出されるなど，観戦を歓迎されながらホームゲームの雰囲気を体験した。

Ⅴ．おわりに

本稿では，「2020 NCAA コンベンション視察研修」について概観した。大学スポーツの運営システムが発達した米国の先進事例を体験として理解するために，NCAA コンベンションに参加することや大学 AD を訪問することは，国内における大学に応用可能性のある知見を得るために非常に有用な機会となるのではないだろうか。筑波大学アスレチックデパートメントにおいては，米国の先進的な取り組みやシステムを応用することで，日本の大学に適した新たな仕組みづくりを試みると同時に，本研修を通して得られた他大学のスポーツアドミニストレーターとのネットワークを活用し，将来的には米国におけるカンファレンスのように大学間で連携をしながらお互いの価値を高め合うような関係性の構築を目指している。今後もこのような機会を継続的に提供することで，日本の大学スポーツ全体の発展を志す仲間を増やし，大学スポーツの未来を切り拓く契機となることを願うものである。

文献リスト

1）大学スポーツ協会：UNIVAS について．https://www.univas.jp/about/（参照日 2020 年 9 月 17 日）

2）池田孝博・小林勝法：日本版 NCAA 創設をめぐる国内の動向と今後の課題．福岡県立大学人間社会学部紀要，26（1），1-15．2017 年．

3）内閣府：日本再典戦略 2016．https://www.kantei.go.jp/jp/singi/keizaisaisei/pdf/2016_zentaihombun.pdf．2016 年 6 月 2 日．

4) スポーツ庁：平成29年度大学スポーツ振興の推進事業選定大学. https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/1406126.htm（参照日2020年9月17日）
5) スポーツ庁：大学スポーツの振興に関する検討会誠最終とりまとめ～ 大学のスポーツの価値の向上に向けて～, https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/shingi/005_index/toushin/__icsFiles/afieldfile/2017/03/10/1383246_1_1.pdf. 2017年3月10日,
6) スポーツ庁, 大学スポーツの振興に関するアンケート. https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop09/list/detail/__icsFiles/afieldfile/2018/05/10/1404336_001_1.pdf 2019年3月19日
7) 高木英樹・山田晋三・佐藤壮二郎：筑波大学アスレチックデパートメント発足の経緯とその足跡, 大学体育研究, 42, 37-46. 2020年.
8) テンプル大学ジャパンキャンパス：大学スポーツ日米共同研究フェーズII最終報告会を開催 - 筑波大×米テンプル大×ドーム（アンダーアーマー）https://www.tuj.ac.jp/jp/news/2018/04/04/the-japan-college-sport-phase-ii-final-report/. 2018年4月4日.
9) 筑波大学：「筑波大学スポーツアソシェーション」の設立について. https://www.tsukuba.ac.jp/public/press/100722press_01-1.pdf. 2010年7月23日.
10) 筑波大学：筑波大学×アンダーアーマー（株式会社ドーム）包括的パートナーシップ協定を締結 . https://www.tsukuba.ac.jp/news/n201611151200.html. 2016年11月15日.
11) 筑波大学：スポーツ庁委託事業：成果報告書. https://www.mext.go.jp/prev_sports/comp/a_menu/sports/micro_detail/__icsFiles/afieldfile/2018/06/14/1406134_007.pdf. 2018年6月14日.